

まだまだ現役
Windows 10

「簡単操作」を使ってみよう！

パソコンを長く使い続けているとマウスやキーボードの操作にも慣れてきていることでしょう。マウスやキーボードの使い勝手をより快適にする作業効率も大幅に変わることもあります。Windows10の「設定」には、操作しやすくするための「簡単操作」というメニューがあります。「簡単操作」には、今回紹介する設定の他にも、さまざまな設定がありますから、使い勝手の良い設定や機能がないか、試してみたいかがでしょうか。Windows11が発売されましたが、まだまだ現役のWindows10を便利に使いましょう。

複数キーでのショートカットキーを固定キーで操作する

マウスを使わないショートカットの操作は便利ですが、複数のキーを同時に押さなければなりません。複数のキーを同時に押しづらいと感じた時は、固定キーを設定すると操作しやすくなります。

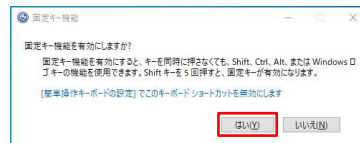
固定キーとは「Shift、Ctrl、AltまたはWindowsロゴキーなどを押ししている状態にする機能」です。「設定」から「簡単操作」→「キーボード」の画面の「キーボードショートカットで一度に1つずつキーを押す」をオンに切り替えます。

これで、1つずつキーを押しても、複数のキーを同時に押さなければ実行できないショートカットキーと同じ操作ができるようになります。

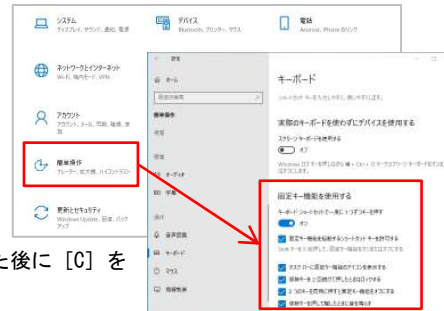
例えば、コピーのショートカットキーは「[Ctrl] + [C]」ですから、「[Ctrl]」をポンと押した後に「[C]」を押すと、「[Ctrl]」と「[C]」を同時に押した状態と同じ操作になります。

「簡単操作」を開かずに固定キーの設定もできます。「固定キー機能を起動するショートカットキーを許可する」にチェックを付けておき、「[Shift]」キーを連続で5回押すと、「固定キー操作を有効にしますか」のメッセージが表示されます。

「はい」を選択すると、1つずつキーを押す操作が「有効」になります。固定キーが有効になっている時は、タスクバーに表示が出ます。反対に「有効」の状態で「[Shift]」キーを連続で5回押すと、メッセージは表示されませんが設定を解除できます。



固定キーが有効の時は
タスクバーに表示が出る



Windows11では、「設定」の「アクセシビリティ」→「キーボード」の画面に、固定キー機能の項目があります。

マウスポインターを自分好みに変えてみる

マウスポインターとは矢印の形をした白いアイコンのことですが、実は色や大きさを簡単に変更することができます。「設定」から「簡単操作」→「マウスポインター」の画面を開きます。

① ポインターのサイズ(大きさ)を変更する

スライダーのつまみを右にドラッグさせるとポインターのサイズが大きくなり、左にドラッグすると小さくなり、最小1から最大15までサイズを設定できます。

② ポインターの色を変更する

任意の色「白」、「黒」、「反転」、「カスタム」から選択します。「カスタム」を選ぶと「推奨されるポインターの色」または「ユーザー設定のポインターの色を選択します」の「+」をクリックすると更に好みの色を選べます。

「簡単操作」でサイズや色を自分の好みにしたり、画面共有するような会議など状況に合わせて変更すると、効率の良いパソコン作業ができますよ。

Windows11では、「設定」の「アクセシビリティ」→「マウスポインターとタッチ」の画面で設定できます。



テキストカーソルも見やすく！！

パソコンで文字入力をしていると、テキストカーソルの位置がどこか分からなくなることがありませんか。

「簡単操作」の「テキストカーソル」でテキストカーソルのサイズを大きくしたり、色を変えて目立たせると、文字入力している位置が分かりやすくなります。

「テキストカーソル」画面の「テキストカーソルインジケータを有効にする」を「オン」にすると、テキストカーソルのサイズと色を変更することができます。

テキストカーソルのサイズを変更する時は「テキストカーソルインジケータのサイズを変更する」のスライダーを左右に移動させます。

色や太さも変更することができますので、イメージのプレビューを見ながら調整してみてください。



設定したカーソルを標準に戻したい時は、「テキストカーソル」設定画面の「テキストカーソルインジケータを有効にする」を「オフ」にします。

Windows11は「アクセシビリティ」→「テキストカーソル」です。

開発室から



令和4年から町内会長になってしまいました。誰もなり手がおらず、くじ引きか、年齢順かで多数決になった結果、年齢順になりました。私より高齢の方はたくさんいますので、私はもちろん年齢順に1票を投じましたが、70歳以上と、町内会長経験者が免除されることになったため、残りの者では、私が一番の高齢者になったのです。まだまだ若いと思っていたのに…

